

「ゲートボール」の今



ゲートボールの歴史



鈴木 栄治氏

■1947年(昭和22年)

芽室町で代用パン工場を営んでいた鈴木栄治(後に和伸に改名)氏が、子どもたちが気軽に楽しめる遊びとして考案

■1981年(昭和56年)

芽室町で第1回全町ゲートボール大会が開催される

■1984年(昭和59年)

芽室町に道内初の屋内ゲートボール場『老人健康増進センター』が完成

その後、栄治氏の妻・寿美氏の手紙により、芽室町がゲートボール発祥の地であることが判明

■1987年(昭和62年)

芽室町で第1回発祥の地杯全国ゲートボール大会が開催される

■1996年(平成8年)

芽室町健康プラザが完成

■2017年(平成29年)

ゲートボール生誕70周年記念事業が開催される



黎明期のプレイヤーたち



2014年(平成24) 全町ゲートボール大会のようす



照井 佑汰さん
(芽室高校1年)

今、浮田さんと同じ高校に通っています。今年、競技を始めました。当初は思った方向にボールを打つことができませんでした。狙い通りに打てたりゲートを通せなかったのは、他のスポーツにはないと思います。



川村 悠太さん
(芽室高校1年)

力だと思えます。普段は少年団チーム『マチルダ』と練習していますが、経験者の方に教えてもらえる環境で上達を感じています。



第28回全国ジュニアGB大会に出場し、高校生の部で準優勝の北海道ベアーズ(前列)、小中学生の部8位のマチルダ(後列)の皆さん。照井さん、川村さんは北海道ベアーズの一員として出場

ゲートボールの魅力とは
競い合うスポーツ、コミュニケーションツール、地域文化としての側面をもつゲートボール。プレイヤーから見た魅力について、今年競技を始めた方にお聞きしました。



揖斐川町小学生県外研修派遣訪問団への普及活動



発祥の地杯全国GB大会
親善的な大会を基調にしながら、「より競技性の高い大会とする」ことで、スポーツとしての魅力を高め、子ども達も出場を目指す大会とするコンセプトを打ち出しています

これまでのゲートボール
高齢者を中心とした「競技スポーツ」



これからのゲートボール
●特別な体力や技術が要らない、誰にでも参加できる「開かれたチームスポーツ」
●小スペース・短時間・少人数でプレーできる「コンパクトで気軽なチームスポーツ」
●戦略性が高く、分析・判断・コミュニケーションを駆使する「知的でモダンなスポーツ」

活動しやすい環境づくり

普及の基礎づくり

交流機会の仕掛け

マナーアップ運動の展開

芽室町では、発祥の地として、関係機関と協力し、ゲートボールの環境づくりと普及活動に取り組んでいます。

2019年には日本ゲートボール連合による再生プロジェクト『ゲートボール beyond 2024 構想』がスタート。従来の限られた年代による競技スポーツのイメージからの転換を図っています。

10年後の競技存続を見据えて

現在50以上の国と地域、1000万人以上の人々に愛される競技となったゲートボールですが、国内ではゲートボール協会の会員数が毎年数千〜1万人ずつ減少しているなど、競技人口の減少が課題となっています。

北海道ゲートボール連合会員数	
令和2年度	1,325人
令和3年度	1,147人
令和4年度	942人

高齢者の引退、指導者や審判員不足、少子化、娯楽や趣味の多様化と原因は様々です

芽室町は今後も「発祥の地」としてゲートボール振興に取り組んでいきます。これからのスポーツの秋、ご無沙汰だった方も、ぜひゲートボールをプレーしてみてください。



め むろちゅうがっこう
芽室中学校
ソフトテニス部

しまの あん

嶋野 杏さん

ペアの後衛。趣味は仲里依紗さんの

YouTube を見ること。特技は卓球

渡邊 れあさん

ペアの前衛。趣味は洋楽を聴くこと。
特技はダンス

試合は7ゲームマッチ
(4ゲーム先取で勝ち)
※3対3で並んだ場合『ファイナルゲーム』となり、7ポイントを
先取した方の勝ちとなります

1ゲーム＝4ポイント先取
 ※互いに3ポイントになったときは『デュース』となり、どちらかが2ポイントを連続で取るまで続きます
 ファイナルゲームは互いに6ポイントになったとき、デュースとなります

中学ソフトテニスのルール

中体連のソフトテニスも個人戦、団体戦があります。個人戦はダブルスのみで7ゲームマッチ、団体戦は3ペアの対抗戦で、2試合を先取した方の勝ちとなります。

ソフトテニス少年団『芽室S.S.T.J.R.』
でペアを組み、この頃から北海道内での
たいかいふくろうしよまぜんたいたいとう
大会を複数回優勝。全国大会にも出場す
るなど、早くから頭角を現します。
ちやうがつちやうせんがく
中学校に進学後も一昨年・昨年と団体
ぜんたいぜんたい
戦で全道大会を制し、全国大会出場の原
きりぞく
動力となってきました。

ふたり
2人がソフトテニスを始めたのは小学
生のころ。渡邊さんは小学1年生のころ
嶋野さんは3年生のときに競技を始めた。
した。

小学生から競技を始め、全国へ

嶋野さん・渡邊さんは今年の7月末に
 おこなわれた第44回北海道中学校ソフトテニ
 ス大会の個人戦(ダブルス)で見事優勝。
 個人戦の全道優勝は10勝勢女子初の快挙
 でした。

きょうぎ
競技を^{たの}していて
^{おも}楽しいと^{しゅんかん}思う瞬間は？

しまの
嶋野さん
あし うら
相手の裏をかくことができた
とき。臨機応変に動けたとき
わたなべ
渡邊さん
き
ボレーが決まったとき、イメ
ージ通りに動けたとき

お互いに尊敬する点は
嶋野さん

チャンスを逃さない。
 難しいボールも決めてくれる
 渡邊さん
 最後まであきらめないこと

8月末に今治市で行われた全国中学校ソフトテニス大会では富山県代表と対戦。3・3と並びファイナルゲームまでもつれ込む展開となりましたが、惜しくも敗退。

嶋野さんは「スピードが違った」渡邊さんは「ボレーをしても拾ってくる」とコメント。地区・全道大会と全国大会の差を肌で実感しました。

悔しい経験となりましたが、嶋野さん、渡邊さん共に進学後も競技を継続する予定だそうです。今後の活躍も期待したいと思います！

全国レベルの高さを実感

今シーズンに向け、嶋野さんは速いボールへの対策として構えを変え、渡邊さんはフーストサーブの決定率を上げることを意識してきました。顧問の瀬島先生も多くの方が関わってくださり、アドバイスをいただいた量も増え、持久力も付いたと取り組みを評価します。

全道大会の団体戦は惜しくも準々決勝で敗れましたが、悔しさをバネに臨んだ個人戦では強さを見せました。決勝3・2で迎えた6ゲーム目、ポイント0・3と先行された状態から巻き返し、悲願の優勝を果たしました。